

被災地の今改めて知る

北区 AMDA 学生と交流

県内の学生らに東日本大震災被災地の現状を知ってもらおうと、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」

（本部・岡山市北区）が20日、岡山市北区の岡山国際交流センターで、岩手県大槌町で活動するスタッフと学生の交流会を開いた。

交流会には、県内の中学、高校、大学生ら約25人が参加。鍼灸院やコミュニティ施設を兼ね備えた「大

槌健康サポートセンター」スタッフの大久保彩乃さん（23）が被災体験や支援への思いを語った。

大久保さんは激しい揺れの後、ラジオで大津波情報を知り、山へ向かった。「津波が来ている」との叫び声を聞き、必死に駆け上がったという。震災後、ボランティア活動を通じてAMDAと出会い、2011年末に開所した同センターのス

タッフになった。

学生からの「私たちの年代で何か出来るか」との問いに、「被災地のことを思ってくれてだけでもありがたい。忘れていないとメッセージを送ってくれば」と答えた。

専門学校に進学する玉野市の大川綾子さん（18）は「17日に大槌町で現地の高校生と演奏会をした。見てきたことや今回学んだことを1人でも多くの人に伝えていきたい」と話していた。